

小浜市新幹線新駅周辺エリア基本計画策事業 第1回策定委員会 議事要旨

令和7年 11 月 28 日 18:00～20:00

当日席順

事務局	地域・教育コーディネーター 村宮委員(Web)	市民代表 濱詰委員	事務局
	市民代表 鈴木委員	市民代表 芝田委員	
	市民代表 森下委員	(株)まちづくり小浜 青木委員	
	市民代表 滝委員	小浜市 PTA 連合会 安田委員	
	若狭おばま観光協会 原田委員	小浜市農業委員会 松長委員	
	若狭青年会議所 吉村委員(代理:児玉)	小浜市区長連合会 朝日委員	
コンサル タント	男女共同参画ネットワーク 朝倉委員	小浜商工会議所 奥東委員	
	小浜市議会 下中委員	小浜市議会 藤田委員	
	福井大学 川上委員	—	
	杉本市長	福井県立大学 教授 松原委員長	

1. 市長挨拶

2. 委員紹介

3. 計画策定の意義、現状、今後のスケジュール

<質疑応答>

【委員】

- ・北陸新幹線の延伸ルートについては、小浜からトンネルを作るルート反対を受けて再検討している状況と認識しているが、どう考えているか。

【事務局】

- ・資料3で説明する予定である。

【委員】

- ・米原ルートの可能性はどう考えているか。

【事務局】

- ・市としては、その可能性を全く考えていない。小浜京都ルートは与党 PT で十分な議論を踏まえ決

められたものである。現在は、あくまでもルートを決めた経緯を「検証」となっている。市としては変更はないものと思っている。

【委員】

- 米原ルートの可能性は考慮しないということで良いか。この委員会では、それを前提に議論を進めていければよいと思う。

4. 基本計画策定方針(資料4)

<質疑>

【委員】

- 市民 WS は今回の計画の肝になると考える。市民の意見を踏まえた形としてほしい。WS のやり方や体制は、市とコンサル等の共同作業なのか？

【委員】

- 市民が気軽に意見を言える場が必要。残念ながら、いくつかの箱物でいつの間にか出来てしまった印象のものもある。市民は箱物アレルギーがある。今の老朽化した建物をスマートな建物に作り直す・集約するなど、夢があるものを希望する。

【委員】

- 基本的視点で小浜市新まちづくり構想を受けて策定するとある。検討する中で新たな項目が出てくる可能性もある。その場合、小浜市新まちづくり構想に入っていないものが出てくると、小浜市新まちづくり構想も部分的に修正・変更していくという理解でよいのか。

【委員】

- 2点確認させてほしい。1点目は、基本姿勢について市長と市民の対話の意見のまとめから整理するという方向であるのか。市長との対話の結果はどのような形で共有されるのか。2点目は人口フレームについて、今後の産業団地の整備や、新幹線が来てからの他の県などからの移動も含めた人口フレームを作成するのかをお聞きしたい。

【委員】

- AOIKE 高等学院敦賀キャンパスが敦賀駅前にある。そこからみる敦賀駅の景観が美しい。あのような駅舎が小浜市にもできると活性化につながると思う。

【委員】

- 基本計画の進め方はこれで良いと思う。身近に良い手本がある。越前たけふの新駅であるが、周辺は田んぼのままとなっている。随分前から計画を立てていたはずだが、なぜ、そこが今現在の状況に至っているか、現在に至る問題点を確認すべきであると思っている。まずは課題を分析することが、計画を立てるのに重要な参考資料であると思っている。

【委員】

- 検討の進め方は良いと思う。この計画は20数年後のことを考えることになる。子ども達のために、小浜市の地域のためだけでなく、日本全体の子ども達ためにもなるという視点を入れることができると良い。
- 私が視察に行った糸魚川駅は人口規模など、土地条件が似ているので調べて、参考にしてほしい。

【委員】

- 新幹線が来る時には現在の子供達もが地域の主力となっている。今の学校では、ふるさとに誇りをも

つ子を育てる教育をしている。新幹線が来るときになって、自分たちの地域に誇りを持っていただきたい。そのためには、計画の段階から夢を持たせることが大事である。WSで出てきた話が子どもたちにもわかるような形で提示されたり、夢のある意見などが出てくるような場があったりすることも必要であると思った。

【委員】

- 計画の策定方針は良い。越前たけふ駅は、越前市の他、鯖江市の関係もある。小浜市についても周辺に大飯、高浜、美浜といった地域があり、これらの地域からのアクセスというのも必要となってくる。車か、鉄道を利用するかは不明であるが、議論をしてほしい。子どもに意見を聞くと、とても斬新な意見が出てくることもある。

【委員】

- 10月に越前たけふ駅に行ったが、在来線とつながっていない点が課題と感じた。議題として見本となる駅の問題点を多く準備してもらい、小浜ではどうすれば課題を解決できるかということを突き詰めていきたい。旧4市町で活動をしているのでこれからの若狭エリアということで新幹線駅を考えてほしい。
- 若者に当事者意識をもって関わる、子どもの柔軟な発想、20年後のスマート&スローシティにそった新しいものをアップデートしてほしい。

【委員】

- 新高岡駅、米原駅、岐阜羽島駅など、将来小浜市がこのような駅にならないようにすべき。東京、名古屋は開発で街が良くなっている。20年、30年先を考えてほしい。

【委員】

- 公共施設の老朽化がすすんでおり、耐震をして何年か使う状況にある。国際会議にも使用できるコンベンションホール等を作ってほしい。交流人口・関係人口を増やすことにもつながる。
- 敦賀駅の今の駅周辺は静かになっている。海、山などがある小浜の良さを活かしたまちづくりをしてほしい。25年先、自分では利用できないかもしれないが、子ども達が住み続けたいという町になってほしい。

【委員】

- かつて上野清治さん(注:小浜商工会議所元会頭)は、H28年に小浜ルートが決定した時に、若狭エリアのハブ機能となる駅にと言って構想を作っていた。若狭エリアをみた機能、開発が必要である。小浜市だけでは難しいので民間の投資を呼び込むような魅力的なコンテンツ、スケジュール感に注目したい。

【委員】

- 資料3では、新幹線駅の位置はJR小浜線、東小浜駅よりとなっている。この場所の場合、JRの在来線と新幹線駅が離れると思う。新高岡駅では在来線駅から新幹線駅への接続をJR城瑞線、シャトルバスで確保している。小浜市ではJR小浜線との接点をどう考えるかが重要である。
- まちづくりとして文化会館、消防署についても老朽化しており、これら施設に近い位置にあるので考慮して計画をしてほしい。

【委員】

- 議会でも新幹線駅の視察をしている。越前たけふ駅では、開業後に企業誘致が進んでいる。開業後にもまちが変わっていくことを考慮して、ゆとりをもった計画を立案することが必要である。

- 新駅周辺のゾーニングもこの委員会で検討するのか。旧上中町、上越妙高駅などでは電線の地中化が進んでいる。
- 上越妙高駅ではJR在来線をいじって交差(注:正しくは並列に配置)させている。小浜では JR 小浜線との関係をどうするかも課題である。小浜では若狭梅街道(国道 27 号のバイパス的な若狭広域農道)が縦に走っている。そこを4車線化にすると、自動運転などが入る可能性もあるので道路は広くしておく必要があるのではないかな。

【委員】

- 今の時点で基本計画にどう意味を持たせるかが重要である。小浜を含む若狭エリア、全国的にもこのルートである必要性を述べるべきである。全国的な国土強靱化、震災に備える、全国的な高速交通網として重要であるという視点を踏まえ、小浜市では新幹線を契機とした将来的なまちづくりを考えていることを打ち出すべきである。
- 長期の計画であり、事業化した時、最低限必要となる鉄道機構が整備する工事に対し後戻りがないような計画とする必要がある。新幹線は小浜市の将来を考える契機であるので、子どもたちと一緒に考えるWSなど進め方を考えてほしい。
- 新駅周辺のまちづくりだけではなく、既存のまちづくりをどうするか。越前たけふ駅では、新幹線駅は交通起点であるという前提に立って、そのために必要なものは何か、広域的なアクセスをどうするか等を検討し道の駅の整備の意見が出ていた。交流拠点とすると多機能となりがちとなり、必要な施設をきちんと議論した方が良い。
- 新幹線駅ができる一帯は農地であり、未利用地に整備する新駅となるので、小浜市全体の既存の集落との関係性を踏まえることが必要である。
- ビジョンを作ることによって乱開発を防ぐことができる。基本的に将来の世代に選択肢を残すような、そういう柔軟性を踏まえたビジョンにしてほしい。
- いつの時点にどう進めるかなどのスケジュール感も重要である。越前たけふ駅の開発については、地域にとって必要な研究開発拠点として凍結し、乱開発を防いでいた。小浜の既存ストックを活かし、周辺をどうするかを考えたい。

【委員】

- 京都と19分、大阪と38分という距離感は、他の駅とは異なる性質であり、ここを活かすべきであると考えている。アクセスが良くなる小浜は将来どうなっていくか、皆さんの知恵を拝借したい。

<応答>

【事務局】

- 本日の意見を踏まえ、市民の意見を聞くWSの進め方を検討する。
- 構想のアップデートについては、社会情勢が変化しているため、現時点で考慮できる、市民の意見を踏まえ、付け加えていく予定である。
- 先進地の事例を見ながら課題を検討する方針であり、越前たけふ駅などへの先進地視察を考えている。
- 今回の委員会で検討するのは駅周辺の計画である。コンベンションなど具体的な施設のご意見をいただいたが、中長期的にどのような機能が必要か、機能としてどの程度の規模が必要かなど。若狭地域、北陸新幹線にとって小浜駅がどういう位置づけとなるべきかを踏まえ、計画をしていきたい。

【事務局】

- 色々な意見を踏まえ検討したい。人口フレームの推計、新駅ができた時の利用者数を踏まえ、駐車場台数などの推計を行う。また、あくまで現時点でのシミュレーションになるが、観光、大阪からの通勤などでもできるだけ踏まえ、推計していきたいと考えている。
- WSについては、市と協議中である。本日の意見を踏まえ、今後検討方法を市と協議し進めていく。
- 近隣の駅の事例については、今回意見のあった駅や、九州新幹線の駅なども含め、分析を進めていく。
- 提案書では、既存の中心市街地と新駅をどうつなぐかが重要という提案をさせて頂いた。つなぐ方法も、シャトルバス、在来線との機能分担、機能連携など色々な方法があると考えている。委員会の中でご意見をいただきまとめていきたい。
- 我々がさば街道ミュージアムに来訪した際、職員の方が熱心にまちの歴史を教えていただいた。
- また、大きな一つの会議テーブルを囲んで向かい合う委員配席で、話し合う会議の距離感が近く、皆さんの新幹線駅に対する熱量を感じた。
- 国勢調査が今年 2025 年にあり、人口推計が 2028 年 11 月に出てくると聞いている。(確認必要)人口減少が大きい中で、新幹線の開業は 25 年先、2050 年先と言われているので、5 年先の 2030 年、10 年先、15 年先の 2040 年国勢調査の人口推計結果をしっかりと見ていき、未来の小浜市の姿を検討していく必要がある。それらを踏まえた基本計画の落としどころの知恵をいただきたい。

【委員】

- 広域的な小浜の位置付けが重要。小浜市周辺は原子力発電所が多いことを考えると、防災拠点的な機能が必要であると思う。単なる新幹線駅の計画でなく、若狭湾まで広く考えることが必要である。スマート&スローシティのイメージをしっかりと出してほしい。

【委員】

- 文化会館の建替えて防災拠点を目指している。福井県の防災の講義を受けた。小浜市は原子力発電所が近くに立地している。原子力発電所の万が一の際にはまず小浜市民が集まって、ヨウ素剤を文化会館に取りに行く避難手順の説明を受けたが、海から離れた新駅候補の場所周辺に防災拠点をもっておくことが望ましいと考える。

【委員】

- 新駅周辺のイメージをキャッチフレーズに近い形で目指すべき方向性を端的に示し、基本的な政策や考え方を示すのが良いのではないかな。

【委員長】

- もう少し議論が進んだ段階である程度まとめていきたいと考える。

5. 今後のスケジュール

<質疑応答>

【委員】

- 基本計画案について、具体的なエリアのボリュームが出てくるのか？

【事務局】

- 具体的な図面というよりは、ゾーニングに近いレベル感のアウトプットを考えている。いくつかのパターンに絞ったうえで、図面に近いものも検討していく。何かの施設を想定して、ざっくりとしたボリュー

ムスタディが必要と考えている。現時点でどこまで詳細に検討する必要があるかはこれからの調整となる。将来的な用途地域なども見据えた上での検討が必要と認識している。そのためには、まずは機能をどうするかという議論が出てくる。

【委員】

- 整備計画素案と基本計画案の位置づけは何か。

【事務局】

- どちらかというと整備計画素案は駅を中心としたゾーニング等の案、基本計画案はそれらを取りまとめるものと想定している。

【委員】

- 整備計画素案など、今回検討するものの関係、つながりについて整理しておくをお願いしたい。
- ワークショップについては、色々な方から意見をもらうことができるように進めてほしい。
- 各委員においては、後で思いついたことがあれば事務局に連絡してほしい。

以上